

今日の一例

入院翌日にくも膜下出血を 来たした虚血発症の両側 頭蓋内椎骨動脈解離の1例

森 興太 国立循環器病研究センター
脳血管内科
Kota MORI

吉村 壮平 国立循環器病研究センター
脳血管内科
Sohei YOSHIMURA

安部倉 友 国立循環器病研究センター
脳神経外科
Yu ABEKURA

丸山 大輔 国立循環器病研究センター
脳神経外科
Daisuke MARUYAMA

佐藤 徹 国立循環器病研究センター
脳神経外科 医長
Tetsu SATOW

高橋 淳 国立循環器病研究センター
脳神経外科 部長
Jun TAKAHASHI

豊田 一則 国立循環器病研究センター
脳血管内科 部長
Kazunori TOYODA

はじめに

脳動脈解離、特に椎骨動脈解離は若年性脳卒中の原因として重要であるが、わが国に多いとされる頭蓋内解離は、脳梗塞だけでなく解離性動脈瘤の破裂によるくも膜下出血発症の危険性も有している。今回、入院翌日にMRIを撮像した直後にくも膜下出血を来たした虚血発症の頭蓋内椎骨動脈解離の1例を経験したので報告する。

症 例

45歳，女性。

主 訴

頭痛，嘔気，めまい。

既往歴

特記事項なし。

家族歴

脳卒中の家族歴なし。その他特記事項なし。

生活歴

10年前より2週間に1回程度、整骨院にて頸部周囲のマッサージを受けている。ゴルフのような頸部を回

旋するスポーツの経験はない。

喫煙は10年前まで1日10本、現在禁煙中。飲酒は焼酎1日1合を毎日。

現病歴

2014年11月某日、頸部周囲のマッサージを受けた5日後より右後頸部痛が出現した（第1病日）。様子を見ていたが、第3病日の夕方洗濯物を取り込んでいた時に頭痛が増強し、めまい、嘔気が出現した。同日近医を受診したが、頭部CTにて異常所見なく耳性めまいの診断で入院となった。第5病日にめまい症状は改善したが、頭痛は持続しており、頭部MRI/MRAで右小脳梗塞、右椎骨動脈狭窄および瘤形成を認めたため、同日当院に転院搬送、入院となった。

入院時現症

身長157cm，体重56.2kg，血圧132/93mmHg・左右差なし，心拍数65bpm・整，体温36.7℃。右後頭部の拍動性頭痛あり。その他一般身体所見に特記事項なし。神経学的異常所見として注視方向性水平性眼振，体動時の回転性めまい，体幹失調を認めた。National Institutes of Health Stroke Scale (NIHSS) スコア 0。